



# 大槌町

町勢要覧

2017



ひとをつなぐ、未来へつなぐ。



# 大槌町から、 未来への約束です。

# 「ふるさと」に、 誇りを持てるまちにする。

大槌町は、東日本大震災津波による暗黒模索の状況から立ち上がり、町議会、町民の皆様、各関係機関団体、そして、被災地大槌町に思いを寄せる人々の支援・協力・連携により、復興に邁進しております。

ハード整備においては、土地区画整理事業等の進捗による一部の災害公営住宅の完成など恒久住宅への移行も始まりました。また、県立大槌病院、大槌消防署庁舎、小中一貫教育校大槌学園の落成、源水大橋や県道大槌小槌線の開通など、復興が目に見える形で進み、新しい街並みも形成されつつあります。さらに、産業分野においても、産業集積地における事業所の再建や、誘致企業の操業開始など、地域産業の再生が進みつつあります。

ソフト面においては、応急仮設住宅から恒久住宅への移行期への心の支援を拡充すべく庁内に新組織を立ち上げ、大槌型コミュニティ総合支援を計画的・継続的に推し進めるとともに、移行期に伴う相談対応など、町内外におけるコミュニティ形成及び醸成を図ってきたところです。

また、鉄道の復旧工事や三陸沿岸道路などの道路整備が進む中、当町においては、町民の皆様様の生活再建支援や公共施設の建設をさらに進めると共に、人・物・情報の交流が活性化し、雇用・Uターンにつながる施策の展開、さらには、人口減少、少子高齢化といった復興後も続く大きな課題・問題に向き合うため、関係機関との連携や、町民の皆様のご協力を得ながら、大槌町が「住み続けたい、訪れてみたいまち」となるよう全力で取り組んでまいります。



大槌町長  
平野 公三



イメージキャラクター  
おおちゃん

大槌町のイニシャル「O」と大槌町の「槌」をモチーフに擬人化し、恵まれた自然環境と、素敵な心のエネルギーを基に「打ち出の大槌」から文化・教育・産業などすべての面で、限りない飛躍の力が大槌町に振り出されることをイメージしたもので、大槌町CI計画により平成6年1月に制定されました。

## CONTENTS

- 復興まちづくりの生活基盤①  
空間環境基盤 ..... 4
- 復興まちづくりの生活基盤②  
社会生活基盤 ..... 6
- 復興まちづくりの生活基盤③  
経済産業基盤 ..... 8
- 復興まちづくりの生活基盤④  
教育文化基盤 ..... 10
- 特産品など ..... 12
- 観光マップ ..... 14
- まつり・イベント ..... 16
- 行政・議会 ..... 18
- 町章と町民憲章・花鳥木魚







**災害公営住宅で暮らし始めて心にもゆとりが生まれました**  
 災害公営住宅入居者 小林 寿美さん

震災当時は中学2年生。津波で自宅が流されてしまい、災害公営住宅に入居する高校3年生まで仮設住宅で生活していました。現在は高校を卒業し、就職して忙しい日々を送っています。両親と私、愛犬との生活で2部屋しかなかった仮設住宅での生活に比べると、災害公営住宅は自分の個室も持つことができ、気持ちにも少し余裕ができました。働きながら自分の将来を見据え、しっかり考えていきたいです。



①・②平成28年3月に完成した末広町災害公営住宅及び同時に開催されたまちびらき式の様子。③城山から町方地区をのぞいた現在の町の様子。④寺野地区に整備した戸建タイプの災害公営住宅。⑤平成28年7月に開通した県道大槌小槌線の開通式。⑥平成28年12月に開催された町方地域復興協議会の様子。



大槌町は、東日本大震災により甚大な被害を受けましたが、復旧・復興の進展に伴い、仮設住宅や、町外での避難生活からの生活再建が着々と進んでいます。平成27年7月に寺野地区、平成28年3月に末広町地区で災害公営住宅が完成し、それぞれまちびらきが行われました。

平成31年度までに、約9000戸の災害公営住宅、土地区画整理事業52・7鈓、防災集団移転促進事業26・3鈓、漁業集落防災機能強化事業4.5鈓、区画総数1,392区画の整備を進めています。また平成28年3月には文教エリアとして位置付けている沢山地区、防災拠点として位置付けている源水・大ケ口地区を結ぶ「源水大橋」が開通する等、災害に強く、安心・安全な道路網の整備も進めています。

こうした復興事業は住民と一体となつて進めていく必要があることから、地域住民への復興事業の説明と意見聴取を目的とした、地域復興協議会、復興まちづくり懇談会を開催しています。

新しい町は、災害面や健康面で安全・安心なだけでなく、環境面・経済社会面で持続可能なものとする必要があり、誰もが暮らしやすい居住環境・交通環境を備え、産業再生や文化再生の基礎ともなる地域資源や風景を再生していくことで、魅力ある持続可能なまちづくり、地域資源としての風景の再生を進めていきます。

復興まちづくりの生活基盤①  
 「空間環境基盤」  
 強く優しいまちを  
 地域とともに



**いつまでも安心して暮らせるまちづくりをお手伝いいたします**  
 UR都市機構 主査 杉田 典夫さん

平成24年より、大槌町との相互協力のもと、災害公営住宅の建設、中心市街地の整備、各地域のまちづくり支援等にかかわっています。これらの事業にあたり心がけているのは、自然との共生や地域共助といった「大槌らしさ」を受け継ぐこと。そのうえで安全・安心、快適などの「新しい価値」を創造すること。高齢者をはじめ全ての町民が、ずっと楽しく、安心して暮らせるまちになってほしい。そのためのお手伝いをこれからもしていきます。



**被災の概要**

東日本大震災津波による人的被害は、死者数(震災関連死を含む)864人、行方不明者は421人となっています。家屋被害は、全壊・半壊4,167棟、一部損壊208棟であり、被災棟数は4,375棟となっています。

農林水産施設、商工業施設や観光施設等の産業被害額は約217億円、道路・海岸施設、上下水道、学校や社会教育施設、役場庁舎や消防署等の公共施設被害が約579億円となっており、産業被害と公共施設被害を合わせた物的被害は約796億円となっています。



ママも自分らしく輝ける  
可能性の蓄でいっばいのまちに

Tsubomi  
代表 大久保 彩乃さん

子育てに奮闘するママたちが、自分らしく輝き、働くことができる社会をつくりたい。そんな思いのもと、2016年5月に「Tsubomi」を立ち上げました。ママ同士が交流し、育児・生活相談ができる場はもちろん、食、音楽、語学といった学びの機会も創出。多様な生き方や広い世界に触れることでママたちの「チャレンジ」したい「気持ち」を後押しし、それを実現できるような大榎と一緒に「つなぐ」と、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。



一緒に悩み、成長する  
子育てで「つながる」場所です

大榎町地域子育て支援センターかりんセンター長 八木澤 弓美子さん

就学前のお子さんとそのご家族が気軽に立ち寄って遊んだり、時には悩みを打ち明けたり。そんな居場所づくりをしています。子育ては喜びも不安もいっぱい。そして子どもの成長とともに地域との関わりも変わっていきます。かりんは、同世代の子どもとその親が同じ悩みを共有する「つながりの場」であり、親子の社会性を育てる場でもあると思っています。そのお手伝いをする私たちも「支援する・される」ではなく、一緒に悩み、成長する関係づくりを心がけています。



①Tsubomiが主催した子育てフェス2016in大榎。家族写真撮影コーナーやクラフト・ハンドメイド作品の販売コーナー等、家族みんなで楽しむことができるイベントとして開催。②町職員を交えた自治会の幹事会。行政と自治会が協働で地域コミュニティを支えています。③大榎町地域子育て支援センターかりんが開催する「えほんひろば」。就学前の子どもを持つ母親が集まり、絵本の読み聞かせをしています。④生活支援相談員訪問時の様子。



震災以前より  
人と人とのつながりが強い町に

大榎町社会福祉協議会  
生活支援相談員 浦田 大輔さん

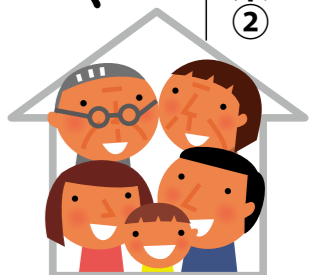
私は震災から約半年後に生活支援相談員となりました。当時は訪問・見守り業務が中心でしたが、環境が変わり公営住宅の再建も進む中、現在は新しいコミュニティ形成のサポートをする仕事を行っています。いろいろな方と触れ合うことで笑顔を見られたり、喜びの声を聞けたりするのがやりがいですね。私自身大榎で育ったので、震災前よりも人同士のつながりが密な町になっていくことに期待したいですし、自分もそこに携わる仕事をしているので、少しでもそれに貢献できればと思っています。



復興まちづくりの基本施策②

「社会生活基盤」

全ての世代が、  
安心して暮らすために



東日本大震災からの復興が進むなか、誰もが支えられながら住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるコミュニティの構築が求められています。

大榎町では、東日本大震災により、壊滅的な状況となった自治会等のコミュニティの再構築を支援するとともに、災害公営住宅や町内で活動する団体の活動支援を実施することで、隣近所、町内会、個人の趣味や祭りなどを通じた繋がりを育み、積極的に互助、共助の取り組みを強化していきます。

児童、障がい者、高齢者等への支援については、すでに策定している児童、高齢障がい者地域福祉の各般の計画に基づき、着実に施策を推進していきます。町では、子育て世帯に対し、第2子以降の保育料の無料化を実施するとともに、大榎町地域子育て支援センター「かりん」に運営を委託し、親子の交流の場の提供や、育児不安に対する相談指導、子育てサークルへの支援等を実施しています。また、東日本大震災で崩壊したコミュニティの再生及び強化を推進するため、行政をはじめ、自治会・町内会、NPO、民間企業、大学等の多様な主体、人材の力を活用し、産学官民連携による様々な支援を図り、将来的には、住民主体のコミュニティによる課題解決や地域活性化を目指します。

コミュニティ活動の推進や保健・福祉等の増進など、誰もが暮らし続けられる地域づくりを推進します。

困った時に助け合える  
近所さんとのつながり作り

大ヶ口町内会 柿野 拓久さん

大ヶ口地区は高齢者世帯も多いのですが、子どもも多い地区です。2016年の7月、昔青年団が行っていた盆踊りを復活させようと納涼会を開催したところ、子どもたち、その親、祖父母などおよそ180人が参加し大成功。たかさんの笑顔を見て、みんなが「楽しい事をした」と思っていることもわかりました。このような町内会のイベントを通じて、世代間の交流を深めながら、介護や災害など困った時に声を掛け合い、助け合えるコミュニティを作りたいです。





## 海のまち大槌を 水産業から盛り上げたい

ど真ん中おつち協同組合  
理事長 芳賀 政和さん・洋子さん  
震災により、大槌町は壊滅的な被害を受けました。私たち水産業者も例外ではありません。それでも「水産業が復興しなければこのまちの復興はありえない」という思いのもと、2012年に4社合同で「ど真ん中おつち協同組合」を立ち上げました。私たちが立ち上がったのは、全国からのご支援のおかげ。その感謝の気持ちは絶対に忘れません。水揚げ量の低下、人材不足など課題はありますが、水産業から「海のまち大槌」を元気にしていきたいです。



## まちの自転車屋として 私たちができることを

内金崎自転車商会  
内金崎 大祐さん・加代子さん

まちなかにおつち店舗は津波で流出。今は仮設商店街で営業をしています。震災直後から避難所や仮設住宅を回り自転車修理をするなど「自分たちができること」をしました。そんな中「もつとお客さんに喜んでもらえることを」と考えたのが、店舗にカフェを併設した「チャリカフェ」。経営指導員のアドバイスのもと準備を進め、2017年にオープン予定です。子ども連れもお年寄りも、誰でも気軽に来てくれるような場所になりたいと思っています。



## 企業の継続した営みが 町の将来につながる

株式会社千田精密工業  
代表取締役 千田 伏二夫さん

私たちは「LC（国際リニアコライダー）」の部品をはじめ、様々な製品をつくっています。大槌工場が稼働してから22年が経ちますが、現在の従業員は地元出身で100%正規雇用しています。「何を必要とされているか」に主眼を置き、他ではできないものづくりに挑戦しています。製品が世に出れば必ず喜んでくれる人がいる。そこに生まれる感動こそが仕事の意義であり、従業員には会社をうまく利用して生活の糧としてほしいと思います。その営みを続けることが町の未来に何らかの形で関与することにつながるはずですよ。



## 若い世代が輝く街に。 食で大槌をアピールしたい

株式会社岩手大槌工場  
サブマネージャー 菅原 秀一さん

この工場では、大槌をはじめとする三陸産の海産物を使用した「まめかぶ」などの水産加工品を製造しています。従業員のほとんどが大槌町出身で、フレッシュな若手社員も活躍している工場です。私たちの目指すものは「食を通じて幸せを提供すること」。大槌で獲れた食材を大槌で製造して全国に届けていることをもつともっとアピールしたいです。若い世代がいまきと活躍する職場、そして街づくりにつながれたらと思っています。



## 復興まちづくりの基本施策③

### 「経済産業基盤」

# なりわいをつくり、 未来を照らす

大槌町では、暮らしを支えている地域の産業の育成や、震災からの復興を目指す、頑張っている事業者を支援するため、様々な施策を展開しています。

国の制度を活用した、ものづくり産業、農林水産業、商業などの集積を促進するための復興特区のほか、町独自の施策として地元商工業を応援するための補助金制度、金融機関からの融資の負担軽減制度などを強化し、被災した事業者の早期再建を図っています。県内外からの企業誘致を推進するため、固定資産税の減免・減額、及び補助金の交付なども積極的に実施しています。これまでに5社と立地協定を締結するなど、産業・生業の場を創出しています。

さらには、町で起業しようとする方への支援制度や、農林水産業の新規就業者も含めたUターン者への助成制度のほか、Uターン総合窓口を開設し就業相談や在宅支援を実施しています。

また、交流人口の増加や物産振興を目指し、WEBサイト「大槌町ポータルサイト」「大槌応援団サイト」も開設しました。

こうした経済産業基盤の整備は、町への定住促進を図るために不可欠なものです。大槌町では、これらの取組みを通じて、若者を惹きつけ地域資源を生かす産業の再生と創出を図っていきます。



## 「Uターン受け入れの取り組み」

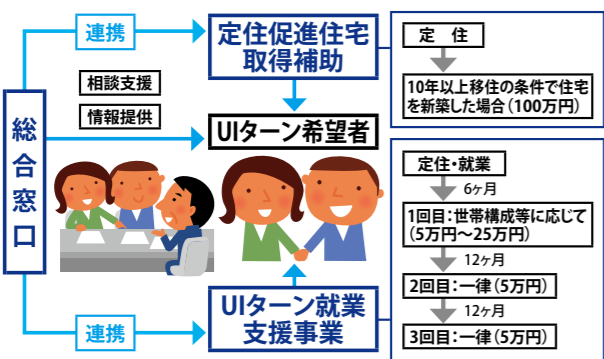
町は、人口減少に歯止めをかけるべく、震災を機に深まった絆や観光振興などを含む「交流人口拡大」に向け、Uターン者の受け入れを促進するとともに、Uターンのニーズを掘り起こし、定住につなげるため、移住希望者に総合的な情報提供等を行い、住まいの確保など移住に関する支援を行っています。

### 漁業学校での研修を経て、大槌町へ

奈良 寿昭さん

震災後に東北地方でのボランティア活動を始め、町が実施した「漁業学校」に参加したことをきっかけに平成26年に移住しました。現在は漁業権を取得し、定置網漁、ウニ、アワビ漁に励んでいます。

町の生活を振り返ると、交通の便など不便なこともあるけれど、朝焼けの空や海上から見える星空、軒先にぶら下がるサケなど自然豊かです。また、おいしいものが多く、自然から当たり前のように食材が採れる環境は「スーパーがなくても生きていける」を感じさせます。地域の人たちから「おすすそけ文化」も楽しいです。



#### ① Uターン相談事業

Uターン希望者に対するワンストップサービスを提供するための総合窓口を設置し、就職支援・雇用環境・住環境や子育て環境についての情報提供などを行い、移住・定住する際の不安を軽減し、安心して生活できるよう支援します。

#### ② Uターン就業支援事業

町内への移住・定住及び就業定着を促進するため、大槌町に転入して就業した方で、一定の要件を満たす場合、助成金を交付します。

#### ③ 定住促進住宅取得補助事業

定住を目的に当町に転入し、住宅を新たに建築又は購入した方に対して、一定の要件を満たす場合、補助金を交付します。



大槌学園 5年生

堀合 蓮人さん

新しい校舎は広くて使いやすいです。同じ校舎に通う先輩たちをお手本にあいさつ運動や勉強をがんばっています。ふるさと科では鮭料理に挑戦したり、大槌の先人について教わったり、今まで知らなかった地元の文化や歴史を知り、大槌のことがもっと好きになりました。



大槌学園 8年生

高木 李子さん

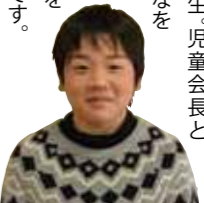
木をふんだんに使った校舎はすごくいい香り。大槌学園は二年生から九年生までみんな仲がよく、合唱や応援などひとつのことにみんなを取り組むことができるチームワークのいい学校だと思います。これからも町のシンボルにふさわしい学校であるために、みんなの力で合わせていきたいです。



吉里吉里学園 5年生

芳賀 陽大さん

ふるさと科はいろんな発見があつて楽しい。林業体験では樹木について調べたり、木を運び出す馬にも乗りました。また合唱もがんばっていて「上手だ」と誉めてもらいうれしいです。2017年春から6年生、児童会長としてみんなを引っ張り、充実した学校生活を送りたいです。



吉里吉里学園 8年生

東谷 哉汰さん

吉里吉里学園では、ふるさと科の授業や生徒会活動を通じて地域と関わり、地域について学んでいます。ワカメの加工体験をして修学旅行先の東京で販売したり、地域の人から郷土芸能を教わり発表会で披露するなどの経験を通じて、吉里吉里のいいところを知ることができて、楽しいです。



### 復興まちづくりの基本施策④

### 「教育文化基盤」

## ふるさとで学び、

## 育む「未来を拓く力」



ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを支え、ふるさとを担う活力ある大槌人を地域全体で育成していくために、大槌町では歴史や伝統、生活文化、そして津波被害の記憶や教訓を次の世代に伝える教育を推進しています。

平成27年度より、町内のふたつの小中学校（大槌学園、吉里吉里学園）において小中一貫教育を本格的に実施。義務教育9年間の教育課程をこれまで以上に系統的、継続的に編成・展開するとともに「地域とともにある学校」を目指したコミュニティ・スクールを導入しています。また「生き方」を基盤とした教育内容を構成し、特設の科目「ふるさと科」を設置。「地域への愛着」「生き方・進路指導」「防災教育」を柱とする町独自のカリキュラムを実施し、郷土芸能の調査や演舞の発表会、町の特産である塩蔵ワカメや新巻鮭づくりを体験するなど、

地域の方々を先生に町の歴史や文化を学んでいます。

津波の被害を受けた大槌学園は、震災以降仮設校舎での授業を行ってききましたが、平成28年9月に新校舎が完成しました。充実した校舎でコミュニティ・スクールを体現する学校生活がようやく始まり、教育環境も復興が進んできました。こうした教育文化基盤の整備を進めながら、歴史や伝統、津波災害の記憶や教訓など「先人の知」を新しい世代に継承し、文化の再生と未来の大槌人の育成に取り組みます。



### 海とともにある 大槌の暮らしを知るきっかけに

小豆嶋漁業株式会社 小豆嶋 映子さん

年に数回、大槌学園のふるさと科で講師をしています。うちは水産業なので、丸ごとの鮭を解体しながら鮭について学んだり、大槌が発祥とされる新巻鮭づくり体験などを行っています。大槌でも、魚を「切り身でしか見たことがない」という子が増えてきました。だからなるべく「生の体験」をしてみようという心かけをしています。この授業を通じて、海の恵みとともにある大槌の暮らしを知り「ふるさとが好き」という気持ちの種まきをしたいと思っています。



### 「このまちの宝を誇りに思い ずっと好きでいてほしい」

はまぎく若旦那会 会長 芳賀 光さん

町内の若手商業者で結成した「はまぎく若旦那会」では、地域の自然や伝統文化を未来に引き継ぎたいと「大槌お宝マップ」を作り町内の小中学校に配布しました。講師を務めている吉里吉里学園や大槌学園のふるさと科でも、このマップを活用しながら大槌の宝を学び、体験する授業をしています。心がけているのは、私たちも一緒に楽しむことです。授業を通じて海と山の恵みいっぱいこのまちを誇りに思い、ずっと好きでいてほしいと思っています。







震災後、放射性物質の影響で出荷制限指  
示を受け、それまで栽培していたホダ  
木を全て処分。ゼロからシイタケ栽  
培を再開して、平成28年6月の全農  
乾椎茸品評会では農林水産大臣賞を  
受賞することができました。シイタ  
ケ栽培は山で木を切るころから始ま  
ります。27歳から始めて、今年で70歳。山で  
の作業やハウスの管理など年齢的に大変に  
なってきましたが、自分にはこの仕事し  
かないと思ひ、続けています。80歳までは  
作り続けたいですね。



**シイタケ**  
特産の「どんこシイタケ」は、大  
きく肉厚。ステーキや炭火焼が大  
槌の定番。

**マツタケ**  
秋の味覚の王様・マツタケ  
も大槌の特産。旬の時期に  
は産直で手に入ることも。



**大槌刺し子**  
大槌町のお母さんが一針一針まご  
ころ込めて刺し子を施しています。ポーチ  
からポロシャツまでラインナップも豊富。

日本一のシイタケを  
作り続けていきたい

シイタケ農家 兼澤 平也さん



**ハチミツ**  
大槌町長者森で作ら  
れる自然養蜂によるハチ  
ミツ。とちの花、アカシヤ  
などそれぞれの花の個性  
が楽しめます。



**酒米 吟ぎんが**  
大槌で栽培される酒米「吟ぎんが」で作られる  
日本酒は、ほのかに甘く切れのよい飲み口です。



**さけ最中**  
町の魚になっている、鮭の形をした最中。  
白あん、粒あんの2種類があります。

# 豊かな自然と 人々の知恵が育てた 自慢の逸品



**イクラ**  
長旅を経て大槌町に帰ってきた鮭から  
取れたイクラ。プチプチとした食感と豊か  
な甘み。

**新巻鮭**  
塩に付け込んだ後、天日に干すことで  
旨味が熟成する新巻鮭は大槌町の発祥  
です。長い歴史と作り手のこだわりの中  
で生み出される極上の味わいをご賞味  
ください。



**城山ポテト**  
さつまいも、バター、生クリームを丁  
寧に練り上げ焼き上げています。しつ  
とりとした上品な甘さです。



**ホタテ**  
大槌町の豊かな海で育つホタテは、大  
粒でプリプリ。甘みが強く、刺身でも焼い  
ても美味。



**ウニ**  
口のなかでとろけ、潮の薫  
りがいっぱいに広がります。  
殺菌海水と一緒に牛乳瓶に  
詰められているのが特徴。



**魚介類**  
三陸沿岸は日本有数の豊かな漁場  
です。その海に面した大槌町は四季を通じ  
て旬の魚介類を味わえます。



**ワカメ**  
肉厚で旨味も強く、熱湯に通すと鮮や  
か緑色になります。味噌汁、炊き込みなど  
幅広い料理でおいしくいただけます。



## 遠く小さな町で、恋をしよう。

大槌町ふるさと納税にご寄附いただいた方へ感謝の気持ちを込めて、大槌町の魅力を  
満載した納税返礼品をご用意しています。詳しくは、下記URL、QRコードから大槌町  
ホームページをご覧ください

大槌町ふるさと納税 <http://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/2015021000029/>



おおつち  
ふるさと納税



# おおつち 観光マップ

イラストでわかる



**①さんずろ家**  
心のこもったおもてなしと料理が自慢



**②タカマス民宿**  
居心地よく長期滞在者にも人気の宿



**③民宿サトウ**  
ロケーションがアットホームな宿



**④新山高原・釜石広域ウインドファーム**



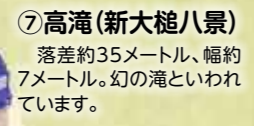
**⑤藤原民宿**  
地元産海産物を使った料理が評判



**⑦民宿あかぶ**  
定置網による漁が体験できる体験型観光の民宿



**⑨ビジネスホテル寿**  
大槌湧水のお風呂が心と体を癒やします



**⑦高滝(新大槌八景)**  
落差約35メートル、幅約7メートル。幻の滝といわれています。



**②タカマス民宿**  
居心地よく長期滞在者にも人気の宿



**④三陸花ホテルはまぎく**  
2013年復活オープンしたオーシャンビューが美しいホテル



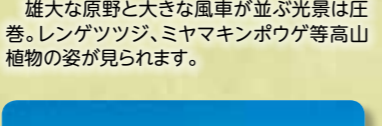
**⑥ホワイトベース大槌**  
wifi完備、長期滞在対応の宿



**⑧三陸の宿 蔵**  
海と山両方の幸が楽しめます



**⑩民宿 六大工**  
地元の海の幸を堪能できる漁師宿



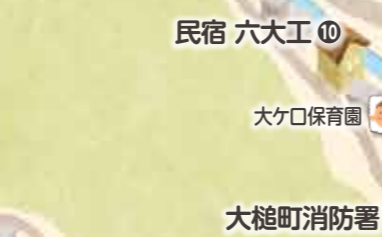
**⑧新山高原(新大槌八景)**  
雄大な原野と大きな風車が並ぶ光景は圧巻。レンゲツツジ、ミヤマキンボウゲ等高山植物の姿が見られます。



**⑥大槌城跡(新大槌八景)**  
中世から江戸初期までの大槌氏の居城。町民から「城山」と呼ばれ親しまれています。



**①浪板不動の滝(新大槌八景)**  
鯨山のふところにある、落差およそ20mの滝。



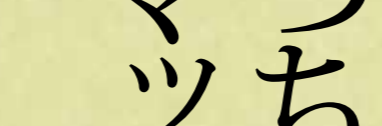
**⑤蓬萊島(新大槌八景)**  
「ひよこりひょうたん島」のモデルとされています。島のお社には豊漁と航海の安全を祈願する弁財天が祭られています。



**大槌城跡**



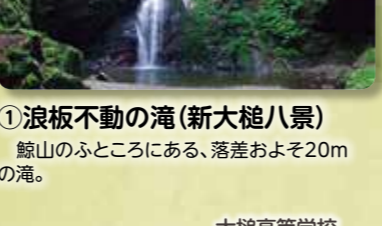
**⑪小川旅館 絆館**  
リピーターも多いアットホームな宿



**①浪板不動の滝(新大槌八景)**  
鯨山のふところにある、落差およそ20mの滝。



**⑤蓬萊島(新大槌八景)**  
「ひよこりひょうたん島」のモデルとされています。島のお社には豊漁と航海の安全を祈願する弁財天が祭られています。



**大槌湾**



**大槌町市場**



**大槌湾**



**大槌湾**



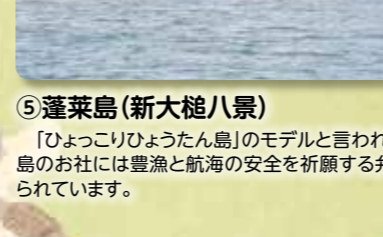
**③鯨山(新大槌八景)**  
名前の由来である鯨にまつわる伝説が残る、標高610mの山。



**浪板交流促進センター**



**②タカマス民宿**



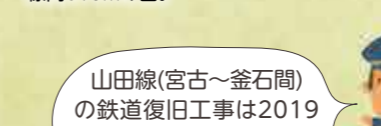
**③民宿サトウ**



**①さんずろ家**



**②浪板海岸(新大槌八景)**  
船越湾にある、波が寄せて返さない「片寄せ波」で知られる海岸です。



**④崎山展望台(新大槌八景)**  
雄大な太平洋を一望できる展望台。真下に見える野島の、松の緑と白い岩肌、青い海とのコントラストが見事。



**④三陸花ホテルはまぎく**



**⑤蓬萊島(新大槌八景)**  
「ひよこりひょうたん島」のモデルとされています。島のお社には豊漁と航海の安全を祈願する弁財天が祭られています。



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



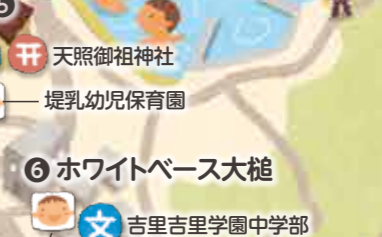
**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



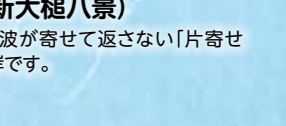
**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**



**大槌湾**

「虎舞」は、沿岸地方に古くから伝わる郷土芸能の一つで、大槌町でも盛んに行われています。



## 大槌町イベント年間予定

5月	新山高原ヒルクライム
6月	新山つつじ再生祭
7月	吉里吉里海岸海開き
8月	吉里吉里まつり
9月	大槌まつり (大槌稲荷神社・小鎚神社例大祭)
12月	おおつち鮭まつり

### おおつち新山高原ヒルクライム

新山高原の上り坂コースを自転車で競うサイクリングイベント。自転車で疾走しながら復興に向かって歩まちの姿と、海、川、里、山の美しさを楽しむのももちろん、支援への感謝を込めた地域の人々のおもてなしも感じられるイベントです。

### 吉里吉里海岸海開き

大槌の夏本番を告げる海びらき。吉里吉里海岸では海水浴場が開設されるほか様々なイベントが催され、多くの人でにぎわいます。

### 吉里吉里まつり

大槌町の祭りの季節の到来を告げるお祭り。天照御祖(あまてらすみおや)神社を出発する神輿の列に鹿子踊、大神楽、虎舞が加わり、演舞をしながら吉里吉里の地域内を練り歩きます。この祭りが終わると、大槌は刻々と秋の気配が近づいてきます。

心が躍り、笑顔が咲く  
このまちの誇りと絆  
いにしえから続く伝統のまつりから  
自然に感謝し楽しむ一日まで。  
様々なイベントが大槌の四季を彩ります。

### 大槌まつり

大槌稲荷神社と小鎚神社が合同で行う例大祭。神輿に大神楽、鹿子踊、虎舞、七福神などの郷土芸能や、各地区の手踊りが連なる神輿渡御行列のお祭りです。また、大槌稲荷神社の神輿は大槌川を、小鎚神社の神輿は小鎚川を渡る川渡御が行われます。

### おおつち鮭まつり

新巻鮭発祥の地としての情報発信や、より一層のブランド化。メインイベントである鮭のつかみ取りをはじめ、新巻鮭の販売、郷土芸能の演舞やお振る舞いなど、様々な楽しい催しが行われます。

## 大槌の「オンリーワン」を発掘・発信 継続的な「交流観光」の推進を

大槌町観光物産協会

会長 千代川 茂さん

震災から6年が経ち新しいまちが整備されつつある一方、ボランティアで町を訪れる人は減少。これからは正念場である大槌の観光を盛り上げていくためには、従来の「過性の観光」ではなく、人と人とのつながりから生まれる「交流型観光」や、大槌ならではの魅力を味わう「体験型観光」の推進が必要です。ご支援いただいた方々とのご縁を大切にしながら、スポーツなど新しい分野でも大槌の「オンリーワン」を発掘・発信していきたいと考えています。

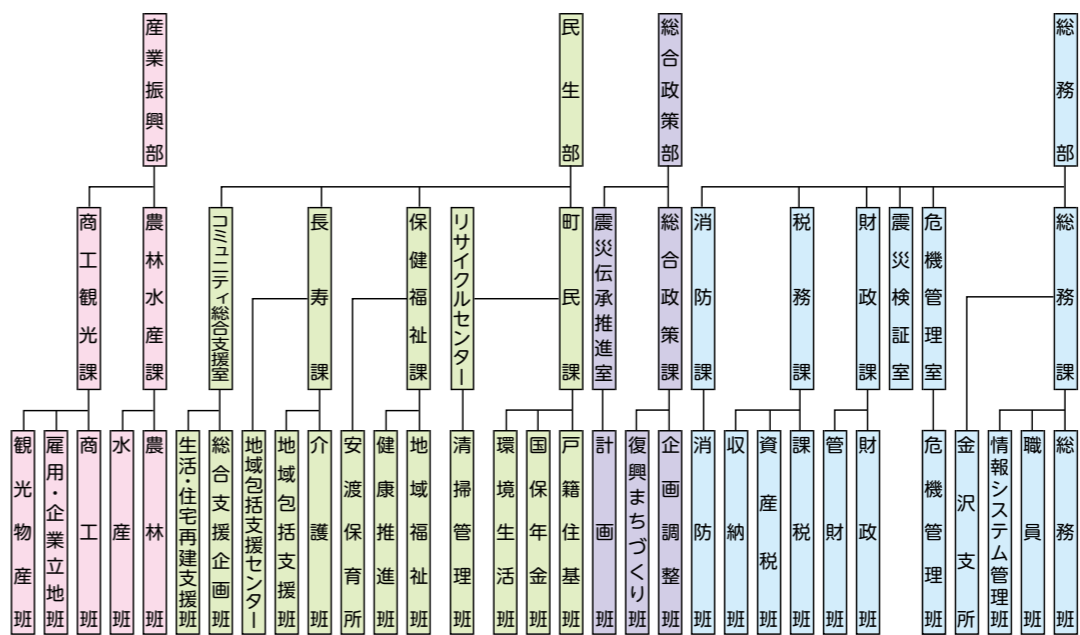




# 行政

行政の最大の使命は住民へのサービスです。これからますます進む国際化や情報化、少子高齢化社会などに伴って、行政に対するニーズは複雑多様化してきます。住民のニーズに対応し、充実した行政サービスと行政運営の体制づくりに努め、住民主体のまちづくりを目指します。

## ■大槌町組織機構



## 町章

大槌町の「大」を「鎧」の中に図案化し、町の円満融和と飛躍を表したもので、昭和35年8月に制定されました。



町の花  
新山つつじ  
〔昭和48年10月制定〕



町の鳥  
かもめ  
〔昭和48年10月制定〕



町の木  
けやき  
〔昭和48年10月制定〕



町の魚  
さけ  
〔平成9年8月制定〕

- ### 町民憲章
- 〔昭和48年10月制定〕
- 一、自然を愛し自然を大切にしましょう
  - 一、産業を興し豊かなまちをつくりましょう
  - 一、健康できまりある生活をしましょう
  - 一、香り高い郷土の文化を育てましょう
  - 一、安全で住みよいまちをつくりましょう

## 大槌町民歌

〔昭和48年10月制定〕  
作詞 滝田常晴  
補作 桜田史郎  
作曲 押尾司

- 1 太平洋に のぼる陽よ  
入り船出船 海の幸  
山のこだまも さわやかに  
生きるよるこび はつらつと  
大槌大槌 このまちを  
力あわせて 築こうよ
- 2 片寄せ波の 浜風に  
根を張る松の たくましさ  
進取の気魄 あふれわく  
みのるしあわせ もろともに  
大槌大槌 このまちを  
日々にいそしみ 拓こうよ
- 3 大槌小槌 水清く  
流れにおどる 鮭の群れ  
心ゆたかな 人の和に  
夢をあつめて うるわしく  
大槌大槌 このまちの  
ゆくてたのしく 進もうよ

# 議会



副議長 芳賀 潤 議長 小松 則明



- |           |           |          |           |           |
|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1番 佐々木 慶一 | 5番 阿部 三平  | 8番 阿部 俊作 | 11番 金崎 悟朗 | 14番 小松 則明 |
| 2番 下村 義則  | 6番 小笠原 正年 | 9番 東梅 康悦 | 12番 阿部 義正 |           |
| 3番 澤山 美恵子 | 7番 東梅 守   | 10番 及川 伸 | 13番 芳賀 潤  |           |

## 姉妹都市「フォートブラッグ市」

平成17年10月15日、大槌町とアメリカ合衆国・カリフォルニア州のフォートブラッグ市は、相互の信頼と尊敬を礎とし、これまでの友好関係をさらに推進するため姉妹都市の締結を行いました。  
フォートブラッグ市はカリフォルニア州サンフランシスコ市から北に約240km、大槌町と緯度がほぼ同じ39度20分の場所に位置し、観光とサケを中心とした水産業を基幹産業とする街です。人口は約7,000人で「世界最大のサケハーベキユ」の開催地としても知られています。  
大槌町では、平成9年に同町で開催された「第17回全国豊かな海づくり大会」にフォートブラッグ市長を招聘。平成14年から中高生のホームステイなどによる両市町の交流をスタートさせ、平成17年にはフォートブラッグ市長夫妻が大槌町を訪問し、姉妹都市締結の調印式を行いました。  
お互いの生活文化や言葉に触れる機会となるこれらの交流は、子どもたちの幅広い視野を養い、国際化を視野に入れた今後の学校教育の現場においても大きな財産となることが期待されます。



## ホームステイを体験して 将来の夢が明確になりました

大槌高校 谷池 聖也さん

中学校から英語が好きで、フォートブラッグ市へのホームステイの話を聞いたとき、日常会話か英語だけの環境のなかで自分がどれだけ英語を話せるのか試してみたくて絶対に行きたいと思いました。

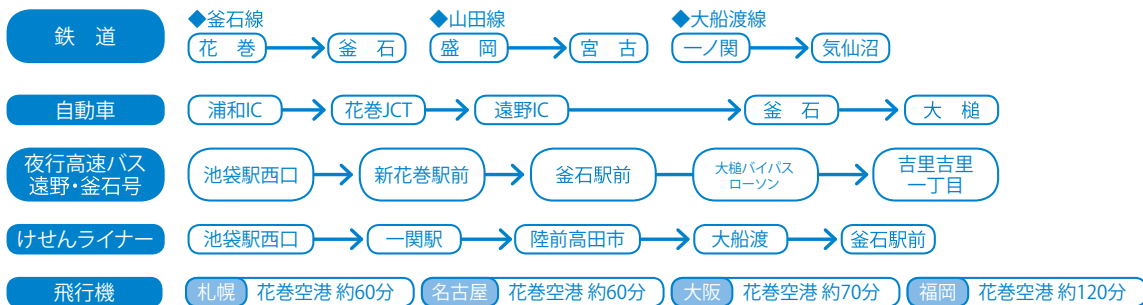
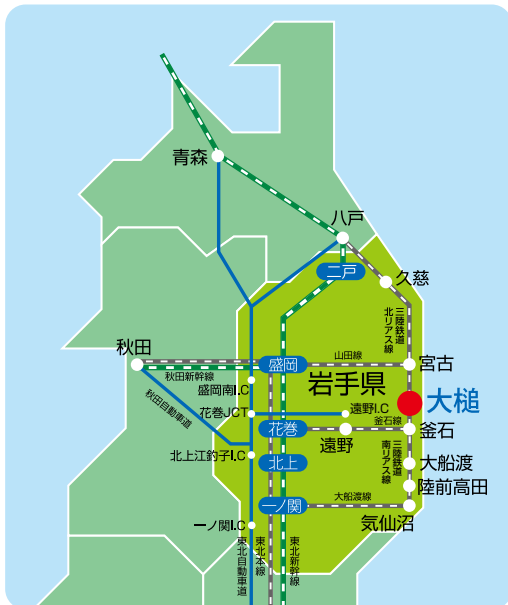


10日間のホームステイでは、授業や日常の英会話がとても速く感じられ聞き取れないこともたくさんありましたが英語で日本と同じ授業を受けたり、友達と一緒に買い物に行ったりできて多くのことを経験できました。優しいホストファミリーとたくさんの方々に恵まれ、友達とは今も連絡をとっています。  
外国語の専門学校への進学も決まり、将来はアーティストやスポーツ選手の専属通訳を目指しています。また2020年の東京オリンピックの時には、出場選手の通訳等英語を通して関わりたいです。





## 大槌町までのアクセス



## 2017 大槌町町勢要覧

発行・編集／大槌町

〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号

TEL 0193-42-2111 (代) FAX 0193-42-3855 (代)

大槌ポータルサイト▶

